

設定することで、株の受光体勢が改善され収量を高められることも明らかにできました。十勝の環境に適正な栽培方法を日々模索することで、近年では収量が軒並み全国平均を上回る状況になりました。ラッカセイを十勝の作物のひとつとして普及する目処が立ったわけです。(図3, 4)



図3. 大学での栽培試験の様子



図4. 収穫したラッカセイ

ラッカセイを通じたバリューチェーンの創出に向けて

2017年に十勝グランナッツ合同会社が設立されました。この会社は生産者が育てたラッカセイを直接買い取り、自ら加工を手掛ける、あるいは地域の加工業者へと仲介する役割を果たすものです。生産者が新規作物を手掛ける際に、一番に抱える不安は「作っても売れるのか？」という点です。もしこの要素を払拭できれば、ラッカセイを育てる生産者も増えてくるはずですが、合同会社買い取り手となることで、生産者が安心してラッカセイの栽培に取り組める環境を築こうとしています。十勝で生産されたラッカセイを、十勝で加工し付加価値を付けて、十勝の流通・販売業者が他の地域に向けて発信していく。この6次化されたバリューチェーンの軸を担っているわけです。私も役員の一人としてこの合同会社に携わっており、大学からも多大な協力を受けています。

海外との間に自由貿易協定や経済連携協定が結ばれるなか、生産の先を見据えた「産業としての農業」を意識した活動が必要になってくると思います。そのために、農産物を通じた産業の連結、地域内での付加価値の創出をこれまで以上に手掛けていかななくてはなりません。ラッカセイの活動が十勝におけるひとつのモデルとなるよう、そしてそれに追随する作物を多く増やしていけるよう、私は栽培学の面から研究を手掛けているところです。